

CHUOH TRY+ANGLE

知っ得通信

2008年8月20日発行 編集・発行：中央教育研究所(株) 〒732-0811 広島市南区段原2-15-5 <http://www.chuoh-kyouiku.co.jp/>



感情の論理 vol.18 「思い、考えを形に」

巷では甲子園だ、北京オリンピックだと騒いでいますが、塾の現場では夏期講習の真っ最中。もしかしたら、ほんのわずかの休息である「お盆休み」に、このメール・セミナーをお読みの方もいらっしゃるのでしょうか。

中学まで四国の野球小僧をしていた私にとって、甲子園には特別な思いがあります。当時、一緒に汗を流した仲間の多くが晴れ舞台で活躍する様子をブラウン管越しに羨望と少なからぬ嫉妬を交えた複雑な思いで見ていたものです。

あれから30年経った今でも甲子園は憧れです。普段、野球に興味があっても、高校野球には感動する方が多いのはなぜでしょう。ここに「感情の論理」の基本があります。

人は素質に感心はしても感動はしません。確かに北島康介選手には元々水泳の素質があったことは否定しません。しかし、我々が彼に感動するのは、そのわずか1分足らずの泳ぎの中から透けて見えてくるものがあるからです。

それは、100分の1秒を縮めるために彼が行ってきた気の遠くなるような努力の日々です。実際に確かめたことはなくても、我々には到底真似のできない厳しい訓練を続けてきたであろうことは「実感」として分かるのです。

この原稿執筆時点では北京オリンピックの結果はまだ出ていませんが、優勝するにしても、万が一敗れることがあったとしても、全ての日本人を感動させる泳ぎを見せてくれるであろうことは、100%の確信を持って断言できます。そう、人は「人が成長するために本気で取り組んでいる姿」に感動するのです。

本来、より努力をしているはずのプロ野球より高校野球に感動するのは、その「姿」が見えやすいのが原因です。そこに気付けば、塾経営者がマーケティング（経営戦略）を考えるときの重要な切り口が分かります。

経営者たる「あなた」をはじめとするスタッフ全員が、塾人として成長するために本気で取り組んでいる姿を見せること、伝えることです。そこに感動が生まれます。感動すれば、人は動きます。

シドニーオリンピックの女子マラソンで優勝した高橋尚子選手は、レース前の抱負で「見ている人が思わず走りたくなるレースをしたい」と述べましたが、実際に「走り出した人」が何万人もいたのです。

では、具体的にどうすれば「感動」を伝えられるか。

一つの具体的な事例を挙げます。これは、ある塾さん(A塾)が実際に実践して、抜群の効果をあげている方法です。

最近は塾紹介のDVDを作成している塾が増えてきましたが、A塾さんは夏期講習の様子を撮影し、ドキュメント風に編集したDVDを作って参加者のご家庭に配っています。効果音も使い、「プロジェクトX」風の作りです。映像には塾生と講師が一緒になって戦っている姿が映し出されます。ここまでも凄いのですが…秀逸なのはエンドロールです。映画のようにエンドロールを付け、そこに「出演者」として塾生全員の名前が流れてくるのです。

これは「ワン・ツー・ワン・マーケティング」の手法なのですが、我が子の、孫の名前を見つけたときのご家族の大きな感動が想像されます。その瞬間、単なる紹介促進ツールが「ひと夏の思い出を刻みつけた一生の宝物」に変わります。

いつも言っていることですが、何事もスローガンで終わらせてはダメです。「形」にすることです。1つずつ「形」に落とし込むことで初めて「あなたの思い」は相手に届くのです。

「思いは伝えなければ伝わらない!」

あなたはどんな工夫で思いを伝えますか?

文部科学省は今月8日、07年度の「学校外での学習活動に関する調査」を発表しました。この発表のもととなる調査は、07年11月、都市規模に応じて抽出した公立小中学生約5万3000人と保護者約6万8000人を対象に実施されました。

1. 塾始めの低学年化

小学生の通塾率は25.9%で、前回調査の93年度に比べ2.3ポイントの上昇。各学年の通塾率は以下の通りになっています。()内は前回調査の93年度とのポイント差です。

△小学1年	15.9% (3.8ポイント増)
▲小学2年	19.3% (5.2ポイント増)
△小学3年	21.4% (3.9ポイント増)
△小学4年	26.2% (2.6ポイント増)
△小学5年	33.3% (2.2ポイント増)
▼小学6年	37.8% (3.9ポイント減)

学年別で見ると小学2年生が5.2ポイントと最も増え、小学1年生も3.8ポイントと増加しており、通塾が低年齢化している実態が、明らかになりました。一方で、小学生の最高学年である小学6年生では、3.9ポイント減。中学生でも5.4% (前回比6ポイント減) となるなど、通塾率は高い値を示しているものの、通塾生が減っている現状が浮き彫りになっています。

また、塾からの帰宅時間は、「午後10時以降」の23.0%が最多となっています。前回の調査では、「午後9時台」が29.5%で最も多く(今回は20%)、通塾生の帰宅時間が以前よりも遅くなっています。

2. 通塾生の平均月謝は

塾にかかった小中学生1人当りの平均月謝は、2万1300円。93年の調査での平均月謝が1万5300円でしたから、6千円上がったこととなります。

塾に通わせない理由(複数回答)には、「費用が家計を圧迫する」とした回答が、小学生のいる保護者では26% (前回比6ポイント増)、中学生のいる保護者では29% (前回比8ポイント増) となっています。

しかし、塾通いが過熱している背景には、約4割の保護者が「学校だけの学習の不安」をあげています。これを受けて、文科省は、「公教育への不安が、塾に通わせる要因になっていることは否定できない」としています。

3. 通信添削の増加

小学6年生から中学3年生までの通塾率が低下している一方、増加しているものがあります。それは「通信添削」です。

通塾率が、小6～中3で減少したのに対し、「通信添削」は全学年で増えており、特に小学1年生では10%から23%と倍以上に増加しています。「通信添削」の費用を塾の平均月謝と同様、93年度と比較すると一平均月謝は5600円で、93年度は4900円、700円の上昇にとどまっています。

つまり塾の平均月謝に比べ、費用が大きく変わっていません。さらに「通信添削」の月謝は、塾の月謝の約4分の1です。このことから文科省は、「塾より月謝が安い、通信添削を選んでいるのでは」とみています。

英語、国語と算数・数学に集中する傾向がある塾に対し、「通信添削」の場合は理科、社会も受ける子どもが多いようです。そして小1～中1の8割以上の子どもが、「通信添削」を『学校の宿題や予習・復習の指導』に活用しています。「通信添削」の場合でも、“公教育への不安”が受講への引き金となっていると考えられます。

番外. 小学女子の習い事離れ

習い事をしている小学生は72.5%で、前回の調査よりも4.4ポイント減っています。特に小学女子の8.7ポイント減(74.3%)が目立っています。一方、中学生は31.2%で、2.9ポイント増加しています。種類別(小中全体)では、習い事の定番ともいえる、習字とそろばんの減少が目立ち、音楽も減っています。

男子はスポーツの伸びが大きく、女子は舞踊(ダンスなど)は7.4ポイント増の10.5%となっています。男女共に伸びたのは“外国語会話”で、男子では2ポイント増の9.3%、女子は4.1ポイント増の12.1%でした。

【男子】	【女子】
(1) スポーツ 86.3% (→ 18.8ポイント増)	(1) 音楽 51.5% (→ 12.2ポイント減)
(2) その他 16.5% (↑ 13.1ポイント増)	(2) スポーツ 29.2% (↑ 1.4ポイント増)
(3) 習字 16.3% (↓ 20.1ポイント減)	(3) 習字 28.6% (↓ 17.3ポイント減)
(4) 音楽 12.6% (↓ 4.8ポイント減)	(4) その他 21.8% (↑ 17.9ポイント増)
(5) 外国語会話 9.3% (→ 2.0ポイント増)	(5) 外国語会話 12.1% (→ 4.1ポイント増)
(6) そろばん 7.6% (→ 7.5ポイント減)	(6) 舞踊 10.5% (→ 7.4ポイント増)
(7) 舞踊 0.9% (→ 0.8ポイント増)	(7) そろばん 8.8% (↓ 8.4ポイント減)